

中等教育研究開発室年報 第33号（2020年3月31日発行）別冊電子版
2019年度 授業実践事例

社会科・地歴科・公民科 中学校第1学年

歴史を大観するためのNIE学習—平成とはどのような時代だったのか—

授業者 鶴田 輝樹

（教育研究大会 公開授業）

広島大学附属中・高等学校

中学校 社会科（歴史的分野） 学習指導案

指導者 鶴田 輝樹

- 日時** 令和元年 11 月 29 日(金) 第 1 限 9:30~10:20
- 場所** 第 1 社会科教室
- 学年・組** 中学校 1 年 C 組 45 人 (男子 24 人 女子 21 人)
- 単元** 歴史の調べ方 まとめ・発表の仕方／これからの日本と世界
中学生の歴史 (帝国書院)
- 目標**
1. 平成時代における個別の歴史的事象について理解し、調査・諸資料から有効な情報を収集し、活用することができる。【知識・技能】
 2. 歴史的事象の意味・意義・特色等を考察し、選択・判断したことを論理的に説明できる。【思考・判断・表現】
 3. 自分の考えを意欲的に主張し、グループでの議論に主体的に取り組む。【主体的に学習に取り組む態度】

指導計画 (全 4 時間)

- 第一次 中国新聞の特集記事から平成時代に起こった個別の事象の知識を捉える。 1 時間
- 第二次 新聞データベースから個人で収集した情報を、グループ内で持ち寄り、協働して考察しながら、壁新聞を作成する。 2 時間
- 第三次 壁新聞の作成及び完成したものをグループごとに発表する。また、完成した壁新聞を振り返りながら、歴史を大観するための視点や方法について確認する。 1 時間(本時 4/4)

授業について

本単元では、新聞資料等を活用しながら、グループごとに様々な視点と方法を用いて平成時代を大観した壁新聞を作る、という主体的・対話的な学習を通して、生徒自身が歴史を多面的・多角的に探求できる授業実践をめざす。

新学習指導要領では、習得すべき知識・技能を、生徒が個別に、あるいはグループで主体的・協働的に思考・判断・表現する活動を通して習得することが重視されている。具体的には、諸資料を基にした多面的・多角的な考察、論理的な説明や議論などを通し、社会的事象の特色や理論などを含めた概念に関わる知識を獲得するような学習が求められている。さらに、社会科歴史的分野においては、学習の中心が「歴史の大きな流れ」の理解であることが重点化され、「各時代の特色」の学習が、そのために踏まえるべきものだという関係と位置付けが明確にされた。

本授業では、「平成とはどのような時代だったのか」という大きな問いを立て、その課題解決に向けて、新聞データベースを活用する(NIE 学習)。新聞は、生徒にとって身近なだけでなく社会や世界との関わりの中で学びの意味を実感でき、学習の動機付けに適した教材になりえる。新聞データベースを活用して収集した情報を、各グループ内で持ち寄り、議論しながら、平成という時代を推移・比較(類似・差異・特色)・相互の関連(影響)・現在とのつながり(背景)、という様々な視点から、「政治」「経済」「国際」「文化・科学」などに着目する方法を用いて考察し、それぞれが壁新聞にまとめ発表する。この一連の作業的、体験的な学習を通して、平成時代の特色を理解するにとどまらず、歴史を大観するための枠組みを獲得し、生徒自身に歴史を探求するための「歴史的な見方・考え方」を育成したい。

題 目 歴史を大観するためのNIE学習 ―平成とはどのような時代だったのか―

本時の目標

1. 壁新聞を作る中で、自ら得た情報を有効に整理・活用することができる。【技能】
2. 壁新聞を発表する際に、「平成とはどのような時代だったのか」を様々な視点・方法から論理的に説明することができる。【思考・判断・表現】
3. グループでの議論及び発表の中で、自分の考えを意欲的に主張することができる。【主体的に学習に取り組む態度】

本時の評価規準（観点／方法）

1. データベースを有効に活用し、情報を収集・整理することができる。【技能／ワークシート】
2. 時代を考察するための視点や方法を理解し、壁新聞の中で平成時代を多面的・多角的に説明できる。【思考・判断・表現／作品】
3. 様々な意見を考慮しながら議論している。また、他のグループの考えを意欲的に聞くことができる。【主体的に学習に取り組む態度／議論の過程での発言等、評価表】

本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
<導入> ○前時までの復習	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでやってきた学習活動を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成時代の特色を理解する方法として、「政治」「経済」「国際」「文化・科学」にグループ分けしたことを確認する。
<展開1> ○壁新聞作り (グループごとの議論)	<ul style="list-style-type: none"> ・データベースから個人で集めた資料を、グループ内で持ち寄り、対話しながら、平成という時代を大観した壁新聞を完成させる。 ・壁新聞の中で、集めた情報が整理され、論理的説明がなされているか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループを巡回し、適宜、歴史を考察するための視点(「推移」「比較」「相互の関連」「現在とのつながり」)をアドバイスする。 ・生徒の議論の方向性が適切かどうかを確認する。 ・議論の過程での発言をメモする。
<展開2> ○プレゼンテーション (グループごとの発表)	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに完成した壁新聞を発表する。 ・他グループの発表を評価シートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンの時間は大体3分程度に設定する。 ・必要に応じてコメントをする。
<まとめ>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに各自の考察をまとめるとともに、本単元の振りかえりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて補足・説明する。 ・最後にあらためて歴史を大観するための視点と方法を示す。
備考(主な引用・参考文献) <ul style="list-style-type: none"> ・『中国新聞』2019年4月18日～21日,23日～26日朝刊「特集 平成を振り返る」 ・原田智仁編『平成29年版 中学校新学習指導要領の展開 社会編』明治図書,2017年。 		

平成とはどのような時代だったのか？

■最初のイメージ

平成とは

時代

■特集記事に目を通して

平成とは

時代

日付（年月日）	出来事

理 由

班のテーマ

政治

経済

国際

文化・科学

■テーマごとにデータベースを調べてみて（個人）

平成とは	<input type="text"/>		時代
日付（年月日）	見出し	内 容	
理由			

■班の壁新聞の見出し

平成とは

時代

評価シート

班	テーマ	見出し							
1			レイアウト	5	4	3	2	1	合計 <input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>
			構成力	5	4	3	2	1	
			プレゼン	5	4	3	2	1	
			コメント						
2			レイアウト	5	4	3	2	1	合計 <input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>
			構成力	5	4	3	2	1	
			プレゼン	5	4	3	2	1	
			コメント						
3			レイアウト	5	4	3	2	1	合計 <input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>
			構成力	5	4	3	2	1	
			プレゼン	5	4	3	2	1	
			コメント						
4			レイアウト	5	4	3	2	1	合計 <input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>
			構成力	5	4	3	2	1	
			プレゼン	5	4	3	2	1	
			コメント						
5			レイアウト	5	4	3	2	1	合計 <input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>
			構成力	5	4	3	2	1	
			プレゼン	5	4	3	2	1	
			コメント						

6			レイアウト	5	4	3	2	1	合計 <input type="text"/>
			構成力	5	4	3	2	1	
			プレゼン	5	4	3	2	1	
			コメント						
7			レイアウト	5	4	3	2	1	合計 <input type="text"/>
			構成力	5	4	3	2	1	
			プレゼン	5	4	3	2	1	
			コメント						
8			レイアウト	5	4	3	2	1	合計 <input type="text"/>
			構成力	5	4	3	2	1	
			プレゼン	5	4	3	2	1	
			コメント						

■授業をふり返って

平成とはどのような 時代だったのか？

広島大学附属中・高等学校教育研究大会
令和元年11月29日(金)第1限(9:30~10:20)
社会科 公開授業(中1) 第1社会科教室

グループ分け（歴史を見る**方法**）

1班	国際	5班	経済
2班	政治	6班	政治
3班	文化・科学	7班	国際
4班	経済	8班	文化・科学

歴史を見る視点

- 推移
- 比較(類似・差異・特色)
- 相互の関連(影響)
- 現在とのつながり(背景)

▶ 1班 国際

平和に向けて
～核なき平和な世界実
現への希望と問題～

▶ 2班 政治

平成政府の光と陰

▶ 3班 文化・科学

世界への架け橋
～文化と科学からみ
た平成～

▶ 4班 經濟

國稅新聞

▶ 5班 経済

スクープ！
米リーマン破綻

▶ 6班 政治

考えが変わる“平成”

▶ 7班 国際

新たな危険がはびこ
る時代

▶ 8班 文化・科学

世界に輝く日本
～平成時代～

歴史を見る視点と方法

〇〇時代	政治	経済	国際	文化・科学
推移				
比較 (類似・差異・特色)				
相互の関連 (影響)				
現在とのつながり (背景)				

今後の課題

- 今までの時代と現代の共通点・相違点は何だろうか？
- 「令和時代」は、どのような時代になっていくだろうか？
- 自分自身で色々な時代の特色について考えてみよう。

授業で学んだこと

平成時代の特色を学ぶ。(特集記事・新聞データベースから)



時代の特色を理解するための**視点と方法**を学ぶ。



自分自身で、時代の大きな流れを探究する。

実践上の留意点

1. 授業説明

本授業では、「平成とはどのような時代だったのか」という大きな問いを立て、その課題解決に向けて、新聞データベースを活用する。具体的には、中国新聞の新聞データベースを活用して収集した情報(平成時代におこった様々な事象)を、「政治」「経済」「国際」「文化・科学」の各グループ内で持ち寄り、議論しながら、平成という時代を最も端的に表す(概念化して説明する)壁新聞を作る。その際、平成という時代を推移・比較(類似・差異・特色)・相互の関連(影響)・現在とのつながり(背景)、という様々な視点から考察するよう生徒に促す。完成した壁新聞を、クラス全体に向けて、グループごとにプレゼンする。聞いている生徒は、評価表(レイアウト・プレゼン力・構成力)を作成する。最後に教師の働きかけによって、時代像はどのような事象を取り上げるかによって印象は変わってくることに、同じ枠組みで歴史を見て比較することで時代の特色がつかみやすくなることに気づかせる。

この一連の作業的・体験的な学習を通して、単に平成時代の特色を理解することとどまらず、生徒自身が歴史を探究するための枠組みである「歴史的な見方・考え方」を獲得し、自ら得た情報を有効に整理・活用する技能、自分の考えを意欲的に主張する態度を育成したい。また、本授業の今後の展望として、以下のような課題解決の授業を検討中である。

- これまでの時代と現代の共通点・相違点は何だろう。
- 「令和時代」は、どのような時代になっていくだろう。
- 自分自身で色々な時代の特色について考えてみよう。

授業実施のタイミングについては、以下のようなケースを想定している。

- これから歴史学習をはじめるとの「授業開き」
- 公民的分野との連携を意図した歴史的分野の「総括」
- 総合的な学習の時間、または特別活動の「投げ入れ授業」

どの場面であっても、生徒が自らの考えや意見を提案したり、議論したりする学習を通して、歴史の大きな流れの中で現代の課題を考え続ける姿勢を持つことの大切さに気付くことができるよう留意する必要がある。

2. 研究協議より

- ・グループで発表を行う際の授業内のルールについて詳しく教えてほしい。
→特に細かいルールは決めていないが、誰か一人に負担が偏らないように、できるだけ大人数で役割分担を決めて発表させている。話し合いを円滑に進めるため、今回は掃除などを一緒に行う、生活班ごとにグループワークを進めた。
- ・(壁新聞を作る過程で)生徒はどのようにデータベースから記事を選び、教員はそれについてどのように声かけをしていたのか。
→壁新聞を作っていくうえで、どの記事を選ぶかは生徒に任せている。話し合いがあまりにも滞ったり脱線すればアドバイスをするが、基本的には自発的に話し合いを進めさせ、自分たちで必要な記事に気付けるよう促している。
- ・授業を通して最終的にどのような主権者を育んでいきたいか。
→今回の授業では主権者教育についてはあまり意識していなかったが、新聞自体、生徒が直面する様々な問題を取り上げているため、NIE実践が最終的に主権者として、社会問題の解決に主体的に考え行動できる、市民的資質の育成につながっていくと考えている。
- ・今回のような壁新聞づくりを実施したきっかけは何か。
→もともと時代の転換点である2019年に、平成時代をテーマにした授業を作りたいと考えていた。今回授業を実施したクラスには歴史を苦手とする生徒が多く、そのため定期的に生徒が興味を持ちやすいよう歴史新聞を作ってきた経緯があり、平成時代を振り返る壁新聞作成に至った。

